

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \* 萩原雄祐関連の貴重な写真収蔵

萩原雄祐と敬称もつけず大変無礼な表題だがご勘弁いただきたい。萩原先生は戦後の東京天文台の復興に尽力され、日本の地理的位置が天文観測に重要な意味を持っていると鼎の三脚の一つの位置であると、日本に世界に伍して観測天文学ができる望遠鏡の設置が重要だと説かれ、東京天文台岡山天体物理観測所の 188 cm 反射望遠鏡建設に尽力された。萩原先生の構想は木曾観測所の 105 cm シュミット望遠鏡建設まで見通された計画であったと筆者の恩人である大沢清輝先生からうかがっていた。萩原先生は第 5 代東京天文台長であり、1954 年には文化勲章を授与されている。

今回、萩原雄祐先生関連の写真が TMT 推進室の青木和光氏の手を経て萩原先生の秘書をされていた磯田さんの縁者から手元に置いておくよりしかるべきところにと国立天文台でアーカイブ事業を行っている筆者に届けられた。

筆者は萩原先生が日本舞踊をやっておられたということは知らなかった。今回の写真に舞踊姿の先生の写真が 4 葉 (写真 1~2) あったのである。



写真 1

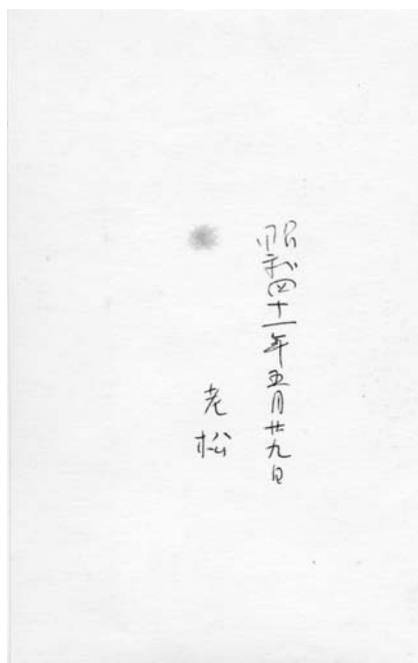


写真 2 写真 1 の裏面

他にも舞台衣装を着けた 3 枚があったが、これらはあまりに私的な写真なので掲載は遠慮しておきたいと思う。

これらの写真の裏面のメモは萩原先生の自書と思われる。意外な一面と筆者は思うが知る人にとっては自明のことなのであろう。



写真3 左から2人目が萩原先生、3人目が秘書の磯田さん

写真3は、昭和32年3月30日の日付がある。麻布の東京天文台と思われるが左端の人はモーニング姿であり、後ろの車は高級車である。



写真4

写真4の後ろから1人目は青木信仰、2人目は鏑木政岐、3人目は藤田良雄、4人目は海野和三郎、前列右から1人目は高橋千恵さん、2人目は磯田さん。他の人は筆者には不明。

写真5の右から2人目が磯田さん、4人目が天文学教室にいた事務の本木さんである。

写真6には第1代台長 寺尾壽、第2代台長 平山信、第3代台長 早乙女清房、第4代台長 関口鯉吉、第5代台長 萩原雄祐と萩原先生が師事されたお一人である平山清次

の6人一組の写真である。



写真5 昭和40年7月19日の日付がある



写真6

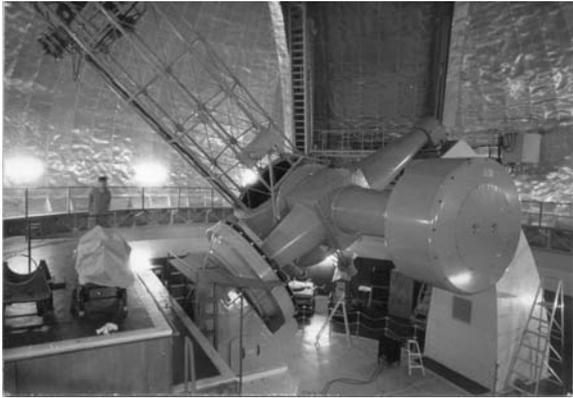


写真 7



写真 8

写真 7 は萩原先生が建設に尽力された東京天文台岡山天体物理観測所の 188 cm 反射望遠鏡である。この望遠鏡は建設当時世界 7 番目の大きさであった。この望遠鏡を手にした日本はやっと世界に伍して観測天文学ができるようになったのである。

写真 8 は、91 cm 望遠鏡ドーム手前から 188 cm 望遠鏡ドームを望む岡山天体物理観測所の定番の景色である。



写真 9

写真 9 は、これら一連の写真に入っていた萩原雄祐の写真である。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)